

高校家庭科におけるESD実践と授業改善： 社会参画意識育成という視点から

石島恵美子¹⁾

伊藤葉子²⁾

中山節子²⁾

¹⁾千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

²⁾千葉大学教育学部

A Method of Teacher Skills' Improvement for ESD in Home Economics: Enhancement of High School students' Competence for their Social Participations

ISHIJIMA Emiko¹⁾

ITO Yoko²⁾

NAKAYAMA Setsuko²⁾

¹⁾Graduate School of Education, Chiba University

²⁾Faculty of Education, Chiba University

本論では、地域社会の形成者としての生活者という基点にたち、社会参画という視点からの家庭科のESDの導入・実践を試み、よりよい導入・実践を探るために、授業改善という方策を用いて、家庭科教師がどのようにESDに取り組んでいけばいいのかという課題に対しての実践的で有益な知見を得ることを目的とする。実践は2011年2月に千葉県県立K高校2年生を対象として行われた。本研究の成果として、まず、ESD実践における授業改善のために、「能力」「学びの方法」からなる授業評価表を開発したことが挙げられる。ESDが目指す「持続可能な社会づくり」の実現には多面的な概念・技能・態度の育成が必要であるが、授業評価表の開発によって教師側は、自分が設定した授業目標・授業方法を評価項目に照らして客観的にとらえ、改善策の具体化へとつなげることができた。また、生徒たちの感想から、生活と持続可能な社会実現との関連性や社会参画に関しての理解が深まり、認識が高まったことが示された。同時に、家庭科ESD実践において、生徒たちがどのようなことを感じ、考えるのかという学びの具体例を示すこともできた。

キーワード：ESD (education for sustainable development) 家庭科 (home economics)
授業評価 (participation in society) 社会参画 (instructional evaluation)

1. 家庭科におけるESD推進のための課題

持続可能な未来に向けて教育のあり方を変えていこうとするESD (Education for Sustainable Development) の推進がグローバルレベルで行われている。国連は、ESDを2005～2014年の10年間のフラグシッププログラムとして位置付け (UNESCO 2007)、日本においては、幼小中の新学習指導要領に「持続可能な開発のための教育」が明示された (文部科学省 2008：2009)。

家庭科においては、松坂もめんという地場産業を教材にして、被服製作をキャリア教育、消費者教育、循環型社会、企業のCSR、フェアトレード商品などのテーマへと関連させ、発展させる実践 (ユネスコ・アジア文化センター 2009) やフードマイレージから食糧自給率、環境負荷などに着眼させ、食生活と地球環境を考察させる実践 (中嶋 2008) がある。

ただし、一方で、環境 (温暖化、エネルギー) や開発 (南北問題、国際理解) などの領域に傾倒し、持続可能な社会を構築するための経済的側面や社会システムの理解には到達しても、持続可能な未来を築く価値観や行動、ライフスタイルを培うことまでには至っていないという指摘もある (中山・伊藤 2011)。近年では、これらの指摘を受けて、生徒たちの価値観や行動、ライフスタイルを培うための家庭科におけるESD実践化も試みられてい

る。具体的には、中山ら (2010) は、消費生活や食生活、エネルギー、環境、労働のトピックをホリスティックに結びつけ、持続可能な社会の実現を目指す学習開発と授業実践や貧困問題から社会的、経済的公正や平等性を考えるカリキュラム開発 (坪内ら 2010) (富田ら 2011) などが挙げられる。

もう一つの課題としては、指導にあたる教師側にとって、ESDの導入・実践のための授業設計の難しさがある。ESDが目指す「持続可能な社会づくり」を実現するためには、多面的な概念・技能・態度の育成が必要であり、授業目標の設定・授業方法の選択を絞りにくいという問題が見出されている (国立教育政策研究所教育課程センター 2010)。学校におけるESDの推進のためには、教師がどのようにESDの導入・実践を進めていけばいいのかという課題に答えていけるような実践研究の蓄積が急務だと考える。さらに言えば、家庭科教育におけるESDの推進のためには、家庭科の授業の中でのESDの導入・実践に関する授業研究が必要だということになる。

また、関係省庁連絡会議の「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施会議」は、「持続可能な将来が実現できるような行動の変換がもたらすこと」を謳っており、これを家庭科教育のなかで実践することためには、生活という閉じられた枠組みで学習を展開するのではなく、社会との有機的な結びつきの中で豊かな家庭生活を営むことを指標とすることが必要となってくる。これは、とりもなおさず、家庭科における

連絡先著者：石島恵美子

社会参画を推進する視点の重要性を意味している。板垣(2007)は、「社会に参画する力」を「社会や社会事象に関わって、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題を解決するために『協働』で学び合う力」としている。

これまで、学校教育においては、総合学習において「子どもの社会参画」が取り組まれることが多かった。ただし、一方で、イベント的で表面的な活動に終始してしまうという指摘もある(中野 2004)。ESDがあらゆる教科で取り組まれることが望ましいように、生徒たちの社会参画についても、学校教育の中で、継続的にさまざまな教科で進められるべきであろう。家庭科においては、社会参画という視点からのESD導入・実践の意義は、家庭科のESDが、単なる「儉約」「省エネ」などにとどまることなく、社会と生活を切り結んだ座標のなかで持続可能な社会の基盤となる生活を捉えていけるという意義を有している。

以上のことから、本論では、地域社会の形成者としての生活者という基点にたち、社会参画という視点からの家庭科のESDの導入・実践を試みる。そして、よりよい導入・実践を探るために、授業改善という方策を用いて、家庭科教師がどのようにESDに取り組んでいけばいいのかという課題に対しての実践的で有益な知見を得たいと考える。

2. 高校家庭科におけるESDの実践

本研究では、高校家庭科の食生活に関する授業において、ESDを導入し、実践をおこなった。授業の概要と指導計画を以下に示す。

1) 実施時期: 2011年2月

2) 対象生徒: 千葉県立K高校2年生

3) 授業の目標

- ① 自分たちの食生活と社会との関連、特にグローバルな関連について理解する
- ② 持続可能な社会の実現という観点から食生活を捉え直す
- ③ 食生活をとおして、生活者としてよりよい選択をし、行動・発信することが社会参画をすることであるという意識をもつ

4) 指導計画

本校では「家庭基礎」における食生活分野の授業を、18時間行っている。その中の4時間で、食生活の現代的な問題についてESD教育の授業を展開した。最初の1・2時間目は、映画「ダーウィンの悪夢」を、解説を加えながら視聴した。本時となる3・4時間目の授業の流れは、表1に示した。なお、授業後に生徒に感想・意見を書いてもらった。

5) 教材開発

- ① 映画「ダーウィンの悪夢」

この映画は、東アフリカのビクトリア湖で養殖する巨大魚ナイルパーチを題材にしたもので、高校生が自分の食生活とグローバリゼーションを結びつけるために適した教材だと考え、選択した。タンザニアから、ヨーロッパ、日本への加工品輸出を軸に、

1日1ドル以下で生活する人々の生活を通して、「グローバル経済の引き起こす現実」を描きだしている。それは例えば、武器輸出への嫌疑、生態系の破壊、輸出したナイルパーチの残骸を非衛生的な状態で食す人々、その中で育つ子供たち、売春やエイズなどの現実である。

- ② プレゼンテーション教材 (以下ppt)

アフリカの子供たちの画像や食料自給率に関連する資料をまとめたプレゼンテーション教材を36枚作成した。内容の概略は表2に示した。また、pptの中で特徴のあるものを抜粋して図1・2・3に示した。

- ③ DVD①『地球の危機 コンビニ弁当とCO₂』

2008年1月4日テレビ朝日で放映されたものの抜粋である。15分で、内容は主にフードマイレージや食品廃棄、食料自給率、南北問題について描かれている。

- ④ DVD②『おはよう日本 (フェアトレード)』

2010年2月11日NHKで放映されたニュース番組の一部(3分)で、フェアトレードについての問題を、バレンタインデー直前の先進国の町の様子と、アフリカのカカオ農園で働く子ども達の現状を対比して報道しているものである。

- ⑤ ワークシート

- ⑥ 資料

食生活の問題への解決策として、フードバンクやチョコレボ等を13項目紹介した資料プリント。(一部pptの内容と重なるが、細かい内容のものは見やすいように資料プリントにし、配布した)

3. 授業改善の方法

授業改善は、先行クラスで授業を実施後、表3の授業評価表を用いて評価し、授業を改善し、後行クラスに生かした。授業評価項目の作成は、石島(2010)の「高校生の社会参画意識調査」の先行研究の結果と、高校生の社会参画意識を支援する要因と国立教育政策研究所のESD教育の指針を参考に、「能力」「学びの方法」に焦点を絞って作成した。本実践について授業評価表を用いた評価をおこない、先行クラスで支援が不十分であった項目について、授業改善を行った。詳細は表3に示す。

先行クラスでは思考力の広がりには乏しいことが示された。後行で実施したクラスでは、前時に視聴した映画「ダーウィンの悪夢」の感想がよく書けていたことから、ウェビングマップの中心となる言葉を「フードマイレージ」から「食のグローバリゼーション」に変更した。後行クラスでは、ウェビングマップの取り組みは、先行クラスよりも積極的であった。予想以上に時間はかかったが、「フードマイレージ」だけでなく映画「ダーウィンの悪夢」からも沢山の単語が出されて、さらに発展的な言葉も多く見られた。キーワードの語数の平均は先行クラスでは19.0語に留まったが、後行クラスでは、32.7語に増加した。グルーピングのバリエーションも様々で、単語同士の関連も表現されていた。知識が広がり、問題の関連性を、先行クラスよりも明確に把握することがで

表 1 授業の流れ

分 類	学 習 内 容	生徒の学習活動	備 考
導入 5 分	本時の内容確認	＊前時は、映画「ダーウィンの悪夢」を解説をしながら視聴した ・本時の目標を理解する	本時のワークシート 資料参照 ppt (No. 1～2)
展開 I 10分	1 自分の食生活をグローバルに考える ①食生活を主体的にとらえる (昼食の献立、昼食の献立の食材の想起) ②食材の産地を考える ③食料自給率を考える	・pptで確認しながら、要点をワークシートに記入する ・昼食の弁当に何が入っていたかを思い出す ・発問に答える ・ある日の昼食の献立をみて、材料の産地を考える【昼食の献立】 おにぎり、鶏の唐揚げ、卵焼き、ポテトサラダ、みかん ・産地を地図上から探し、日本と線で結ぶ ・食料自給率を考える	ppt (3～12)
展開 II 25分	2 持続可能な社会の実現という観点から食生活を捉え直す フード・マイレージを理解する ①フード・マイレージの概要 ・発案者：ティム・ラング ・発案時期：1994年 ・目的：輸送に伴うエネルギーをできるだけ減らし、環境にかかる負荷を軽減しようという運動 ・計算方法 ・関係要因 ・フード・マイレージと環境エネルギー問題 CO ₂ ②フード・マイレージのDVD①を視聴 フード・マイレージの概念を整理 ③日本のフード・マイレージの現状	・pptで確認しながら、要点をワークシートに記入する ・フード・マイレージの特徴について理解する ・フード・マイレージと環境に対する負荷の関係を理解する ・DVD①を視聴しながら、ワークシートの問いに答える ・DVD①を見て、フード・マイレージの概念を整理し、日本のフード・マイレージの現状や、持続可能な社会の実現という観点から食生活を捉え直す	ppt (13～18) DVD①
展開 III 10分	④フード・マイレージを通じて見えてくる問題を知る ・食品廃棄 ・食料自給率 ・ウェビングマップの書き方を理解する	・師範をpptで確認しながら、ウェビングマップの作り方を確認する	ppt (19～24) モニター
展開 IV 10分	3 食生活の問題を考える ・手法の説明・考え方 ①キーワードを考え書き出す	・班学習でウェビングマップを作成する ・フード・マイレージ（後行クラス：食生活のグローバル化）に関連する単語を考える	模造紙 マジック 付箋紙
展開 V 10分	②キーワードの関連を考え、テーマに区分し、整理する	・フード・マイレージ（後行クラス：食生活のグローバル化）に関連したキーワードのつながりを考え、テーマ毎に整理し、概念図を作る	ワークシート
展開 VI 15分	4 食生活の問題の解決策を考え、発表する（社会参画力を身につける） ①班で選んだ問題点に対する具体的な解決策を考える ②私たちが今日からできることを考える ③発表する。	・DVD②を視聴する ・班毎にディスカッションしながら問題の解決策を考える（資料プリント） ・必要事項をワークシートに記入し、互いに確認する 知る：行動する：情報を共有する・発信する：	ppt (25～34) DVD② ワークシート 資料プリント
展開 VII 12分	5 食生活の問題についての考えをまとめる	・日本の貧困率について理解する ・小論文を書く	ppt (35～36) ワークシート
まとめ 3 分	次時の授業の連絡	・ワークシートを整理する	ワークシート

表2 プレゼンテーション教材の概要

ppt番号	学 習 活 動	概 要
1～2	表題「食生活のグローバルゼーションを考える」	・ウガンダで飛行機からの落下物を待つ子どもたちの画像
3～12	自分の食生活をグローバルに考える	・昼食のメニューから食料自給率を考えよう ・ある日の高校生の昼食例（ご飯、鶏の唐揚げ、卵焼き、ポテトサラダ、みかん） ・食品の移動距離。最も多い産地で計算する。（世界地図を用いて図示） ・主要先進国の食糧自給率の推移を示したグラフ ・日本の食料自給率（肉類・豆類・野菜・果物・魚介類） ・日本の食糧自給率40%先進国最下位
13～18	持続可能な社会の実現という観点から食生活を捉え直す	・フード・マイレージの提唱者や考え方説明 ・なぜ私たちは食料を輸入するのか
19～24	フード・マイレージから見えてくる問題を整理する	・ウェビングマップを作成しよう （作成手順：キーワードを出す→つながり→テーマ毎にグルーピング）
25～34	食生活の問題を考える いろいろな解決方法を知り、自分の解決方法を考えよう	・ウェビングマップを用いて話し合う ・食糧危機で緊急援助が必要な国39カ国 ・日本の農業就業人口の平均年齢63.4歳 ・日本の耕作放棄地の面積39万ha ・日本の食品廃棄物の量 2,169万t ・フェアトレードとは？ ・フードバンクとは？ ・チョコレボとは？ ・産地直売店とは？ ・農林水産省ホームページ「私のアクション宣言」大募集抜粋
35～36	食生活の問題を考えをまとめる 世界の問題は日本の問題である	・小論文を書こう ・日本の貧困率15.7%、6人に1人が貧困

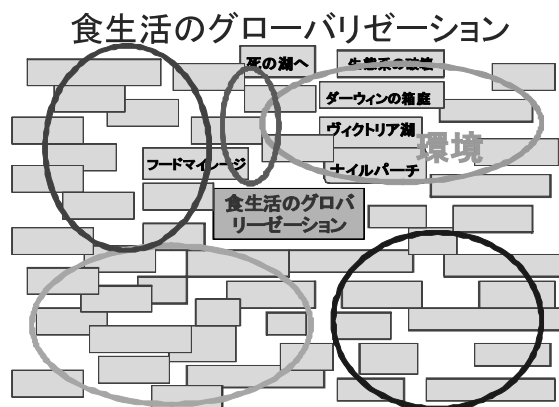


図1 ppt. 24 ウエビングマップの作り方

きたと言える。このように、授業改善としての支援の変化で、学習の深まりの差がはっきりみえた。

また、問題に対する解決方法については、先行クラスでは、「募金をする」などの一般的なものが多かった。授業改善として、資料プリントを配布したことにより、後行クラスにおいては、解決に向けての行動がイメージしやすかったのか、「食品廃棄を減らすために、牛乳などを買うときに、賞味期限の長いものをスーパーの棚から選んで買わないようにする」や「材料を秤で計ってから料理をして、残飯を出さないようにする」など、生活

者の視点から捉えた具体的な方法が多く出された。

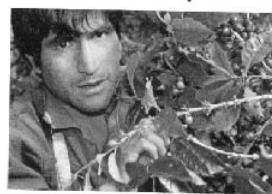
対象校では、大勢の前での、言葉による意思伝達を苦手としている生徒が多く見られたことから、本実践では、敢えて班活動の最後に、班ごとの発表を実施した。先行クラスでは意見を表明できるレベルにまで達せず、単語しか発言しなかったり、聞こえにくかったりなど、意見発表の難しさが見られたため、授業改善を行い、後行クラスでは以下のような支援を行った。

- ・自分の考えをプリントに書き、班内で発表し合い、班を代表する意見を発表する
- ・教壇での発表では緊張が高まるため自分の席で行う
- ・うまく話し出せない場合は、質問項目を教員が問いかけ、インタビュー形式で行う。
- ・質問役の班を設定しておき、発表の後に質疑応答をおこなう
- ・小さな声の場合には、教員が復唱するなどの支援をおこなう

その結果、活発な質疑応答式の発表となった。特に質問役の班を設定したことが功を奏したと考えられる。

また、思考力を深める改善に対する支援について、以下のような改善をおこなった。

- ・物事のつながりを考えながら、キーワードを出すことを強調した
- ・答えは1つではないことを強調し、バラエティに富ん



12

生産地に安心と安定を与える

コーヒーや紅茶、バナナやカカオなどの現金作物は、せっかく作っても市場価格が安定せず、私たちのために作物を作ってくれるのに、生産者がその収入で生活できないことがあります。そうした不幸と不正を防ぐために、生産者に公正（フェア）な価格と権利の取組を約束し、環境に配慮した農業を安定的に安心して行なえるようにする持続可能な仕組みが「フェアトレード」です。フェアトレードの基準を守った商品には専用のラベルが貼られ、区別できるようになっています。日本ではまだまだ産産量は少ないのですが、最近は大手スーパーでもフェアトレード商品を見かけるようになりました。

▶ アクションの入り口

フェアトレード・ラベル・ジャパン

<http://www.fairtrade-jp.org/>



23

食品を再分配する

日本では毎日約6万tもの食品が捨てられています。食べ残しではなく、消費期限が切れたのでもなく、容積のラベルが汚れてしまったり、形がいびつだったり、それだけの理由で廃棄されているものをもう少しありません。食料の60%を海外に買っているのに、かわらず、本来であれば食べることができる食品の3分の1が捨てられてしまっているのです。この「市場性のない食品」が捨てられ、廃棄施設やホームレスの人びとなどに提供するのが「フー・バンク」という活動です。日本における再分配のセカンドハーベスト・ジャパンは、「全ての人に、食べ物を」を合い言葉に、食の再分配を通じて貧困問題の再構築を目指しています。

▶ アクションの入り口

セカンドハーベスト・ジャパン

<http://www.2hp.org/>

図2 ppt. 31 食生活のグローバルゼーションの解決策の紹介（ダイヤモンド社「たべものがたり」p61）

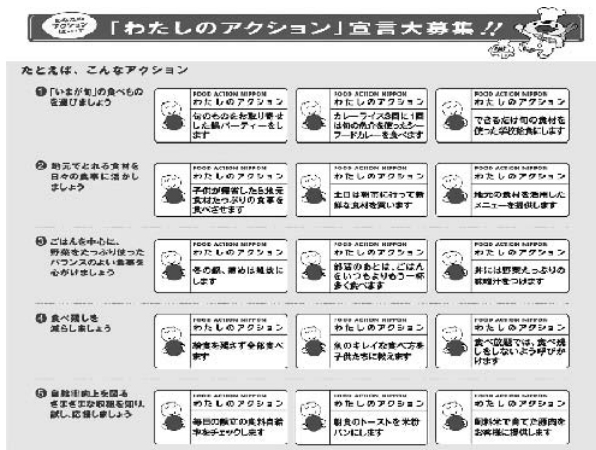


図3 ppt. 33 さまざまな取り組み（農林水産省 <http://syokuryo.jp/index.html>）

だ多角度からの思考の重要性を伝える

- ・小論文の時間を取り入れ、思考の個人的な深化を促す以上、授業改善としての教育支援により、生徒の思考も深まったととらえられる。生徒の感想を読むと、授業目標が達成できた生徒がほとんどであった。

各支援の結果、本授業実践の生徒たちの学びの様子を客観的に評価することが出来、評価項目について振り返り、授業を改善することが出来、後行のクラスの実践は先行クラスの比し、より有意義なものとなった。

生徒の授業後の感想について、授業目標と対応させてまとめたものを以下に示す。

① グローバルな視点が書かれたもの

- ・日本がナイルパチの輸入国の2位でさらに自分がよく食べているものだったのは、驚いた。他にもこういうことがあると思う。知らないことは罪である
- ・先進国のためにアフリカ等の貧しい国の人々が犠牲と払って輸送をし、苦しい生活をしているということをもっと多くの人が知るべきだと思う

- ・戦争も貧困も環境も自分たちが生きるのとなつがっていった
- ・食料自給率が日本は最下位だったことに驚いた。好きなものだけ食べたらだめだ。いろいろなことを考えなくてはならないと思った
- ② 持続可能な社会をつくる視点として書かれたもの
- ・食品廃棄はもったいない。無駄な食料を出さず、食べ残したりしない
- ・輸入などに多額の金を払うくらいなら農場施設の発達のために金を払って農業の発達に力を注ぐべきだ
- ③ 社会参画の視点として書かれたもの
- ・できることから心がけたいと思うし、多くの人に啓示したい
- ・知らないから平気でいたけど、自分たちのせいで、貧困に苦しんだり環境が悪くなっていることを知ったら、変えると思うから、多くの人に知ってほしい
- ・大学生の活動で、TFTがあることを知った。自分も参加したい
- ・班でウェビングマップを作ったりするのは、初めてで最初はどのようにしてよいかわからなかったが、いろいろな考えを聞くことができてよかった

4. 本実践の評価と考察

本研究では、地域社会の形成者としての生活者の育成を目指し、社会参画という視点からの家庭科のESDの導入・実践を試みた。

本研究の第一の意義は、ESD実践における授業改善のための授業評価表を開発したことである。ESDが目指す「持続可能な社会づくり」の実現には多面的な概念・技能・態度の育成が必要であるが、授業評価表の開発によって、教師側は、自分が設定した授業目標・授業方法を評価項目に照らして客観的にとらえ、改善策の具体化へとつなげることができた。これは、授業改善には「省

表3 授業評価表

分類	評価項目	先行クラスで、半数以上の生徒に支援が有効であったか	後行クラスで行った授業改善のための具体的な支援
能力	思考力	△：思考の広がりには乏しい	→ウェビングマップの中心の言葉を「フード・マイレージ」から「食生活のグローバリゼーション」に変更 →ウェビングマップのキーワードのつながりを考えることを強調
	問題を感じる批判力	△：自分の生活の問題として捉えられていない	→日本の食料自給率の国際比較のグラフを提示 →日本の子どもの貧困率を提示
	知識や他者の考えを理解する力	○	
	考えを伝える表現力・発信力	×：自分の意見が言えない	→教壇での発表ではなく、自分の席で発表 →他の班に質問役を設定し、発表後の質疑応答で活性化
	知識を活用する力	×：自分の生活に活かすことが具体的に考えられない	→資料プリントを配布し、自分たちにもできる「等身大」の行動を提示し、身の回りのことを考えさせた
学びの方法	参加体験型の手法が活かされている	○	
	多様な立場や世代の人と関われる	×	→人と関わるヒントとなるようなボランティア活動の提示
	学習者がそれぞれの目標で学べる	○	
	1つの答えを正解としない	○	
	お互いに意見や情報を共有できる	×：自分の意見を言わない	→自分の意見を文章にまとめ、それを読んでお互いの意見を紹介し合う
	1つの作業を協力して行う	△：作業はできるが、意見を出し合う積極性に欠ける	→ウェビングマップのキーワードが沢山出るように、師範のウェビングマップを紹介 →キーワードの目標数（40個）を明示

察」が必要であり、その際の有益な手がかりとなったからだと考える。

改善後の授業によって、生徒たちは、評価表で挙げた能力「思考力」「考えを伝える表現力・発信力」「知識を活用する力」を高められたと思われる。たとえば、「思考力」の向上としては、授業後に書いた感想に自分たちの生活までつなげて考えたことに関する記述が見られたことが挙げられる。また、「知識を活用する力」として、獲得した知識から意欲を高め、行動につなげようとする姿勢も述べられていた。加えて「考えを伝える表現力・発信力」の高まりは、ウェビングマップにおける生徒が挙げたキーワードの各班の平均個数の増加からも裏付けられた。

また、授業評価表の学びの方法「多様な立場や世代の人と関われる」については、実際に交流は無理でも交流への動機づけを高める情報を提供すること、「お互いに意見や情報を共有できる」については、前述したような指導の工夫による改善策を見出している。

第二の意義としては、家庭科におけるESDの導入・実践にあたって、教師はどのような視点をもって授業計画を作成し、教材開発すればいいのかという点で、有用な資料を提示できたことである。本実践の目標として掲げた「生活と社会との関連をグローバルな視点からとらえ、

理解すること」「持続可能な社会の実現から生活をとらえ直すこと」「社会参画に関する認識を高めること」に関して、生徒たちの感想から、生活と持続可能な社会の実現との関連性や社会参画に関する理解を深め、認識が高まったことが示された。同時に、家庭科におけるESD実践において、生徒たちがどのようなことを感じ、考えるのかという学びの具体例を示すこともできた。

引用文献

- 石島恵美子. (2010). 高校生の社会参画意識と、その関連要因の検討について. 日本家庭科教育学会第53回大会要旨集, 104-105.
- 板垣英一. (2007). 社会に主体的に参画する力を育む社会科学学習の展開. 福井大学教育実践研究, 32(127-138).
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター. (2010). 学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究中間報告. 国立教育政策所.
- 文部科学省. (2008). 小学校学習指導要領.
- 文部科学省. (2008). 中学校学習指導要領.
- 文部科学省. (2009). 高等学校学習指導要領.
- 中嶋たや. (2008). ESDを視野に入れた家庭科の授業の取り組みフードマイレージから食生活を考える. 奈良教育大学附属中学校. 紀要(37), 93-104.
- 中野真志. 太町智. (2004). 地域社会への子どもの参加についての研究. 愛知教育大学教育実践総合センター 紀要(7), 1-9.
- 中山節子. 伊藤葉子. (2011). 家庭科の視点を中軸に据えたESDモデルの開発. 日本家庭科教育学会第54回大会要旨集, 106-107.
- 中山節子. 堀尾真理子. (2010). 家庭科における食生活と世界とのつながりを考える授業実践. 千葉大学教育学部研究紀要(58), 89-94.
- 太郎次郎エディタス. (2005). コンビニ弁当16万キロの旅—食べ物が世界を変えている. 千葉保監修Think the Earthプロジェクト (2009). たべものがたり. ダイアモンド社.
- UNESCO. (2007). The UN.
- 坪内恭子. 中山節子. 藤田昌子. (2010). 格差社会に生きる若者の自立支援—学校教育における取り組み—2010年生活経営学部会夏期セミナー要旨集, 9.
- 富田道子. 中山節子. 藤田昌子. 松岡依里子ら. (2011). 高等学校家庭科における格差社会の諸課題を考える学習の教育的効果. 日本家庭科教育学会第54回大会要旨集, 108-109.
- UNESCO. (2007). The UN Decade of Education for Sustainable Development (DESD 2005-2014) The first Two years.
- ユネスコ・アジア文化センター. (2009). 第1部事例1 松坂もめん：地場産業から学消費者教育. ESD教材活用ガイド—持続可能な未来への希望, 8-13.
- 湯浅清治. 由井義通. 草原和博. 河野芳文. 阿部哲久. 高田悟. 藤原隆範. 宮本英征. 栗谷好子. 橋本浩. 伊藤直哉. (2010). 高等学校における総合的な学習の時間を活用したESDの展開. 広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要(38), 99-104.

参考映像

- ダーウィンの悪夢. (Darwin's Nightmare). 監督フーベルト・ザウパー. (2005).
- 地球の危機 コンビニ弁当とCO₂ (2008).
- NHKニュース. (2010). 2. 11放送.